

株式会社タムロン

2023年12月期 第2四半期決算説明会

日時：2023年8月8日（火）17:30～18:30

【主な質問と回答】

Q1. レンズ交換式カメラおよび交換レンズ市場が好調であるが、持続性についてどう考えているのか？おそらく、コロナの後の経済活動再開や制限解除といったものもあるかと思うが、この考え方を教えて欲しい。

A1. コロナ禍明けで旅行等、人々の活動が活発化している。今年上期も台数ベースでは横ばい、高級化が進んでおり金額ベースでは増加している。今後の見込みとしては、趣味的商品であるので、右肩上がりとは言わないが、現状を維持しつつ推移していくと考えている。また、今後も高付加価値商品の増加が続くと考える。

Q2. 期初の計画と今回の修正計画を比較すると下期は実質的に下方修正になっている。中長期施策による営業活動費等で販管費の増加が要因という説明があったが、それは現時点において具体的に用途が決まっているもので確度の高いものなのか、またはバッファーとして置いているものなのか、その考え方を教えて欲しい。

A2. 現在計画している必要経費を当てはめており、バッファーは見えていない。また、写真レンズにおける新製品については下期中心になっているので、その経費はある程度厚く見ている。

Q3. 株主還元に対する考え方について教えて欲しい。もともとタムロンの財務体質が強固で、さらに今回業績予想を上方修正している。ここまで業績がよいと現預金が積み上がっているかと思うが、それをベトナム投資以外に投資する用途があるのか、株主還元に戻すのか、キャッシュの使い道についての考え方を教えて欲しい。

A3. キャッシュの使い道は事業の成長のためのM&A、研究開発、また、中長期の生産のための工場新設、システム投資といったものを考えている。また、株主還元については、今期中間配当を5円増配したが、今後、全体のバランスを見ながら考えていく。

Q4. 写真関連について、上期は非常に好調だったが、期初には下期に期待の新製品があるというっており、売上は下期も伸びる前提ということで、期待しているのか？

A4. 下期についても期初に予定していた新製品の発売を予定しているのでこの通期計画数

値は達成できると考えている。下期の新製品は下期だけに効くわけではなく、その次の期に効いてくる。この好循環は今後も維持していきたい。

Q5. 自社ブランドの新機種投入数は年間5機種程度としているが、来年以降における投入数について、異なるマウントも含め、7~8機種等への増加を考えているか？

A5. 開発キャパもあるので、年間5機種程度としている。

Q6. 新規事業について、例えばM&Aチームの設立等、組織面でやっていることはあるのか？

A6. R&D技術センターに新規事業の開発チームがあり、経営戦略本部と一緒に検討している。

Q7. 自社ブランドの収益性について、上期は高い利益率となったと思うが、下期、来年に向けての持続性についてどう考えているのか？

A7. コロナ禍明けで営業活動が活発化し、展示会等の参加で費用がかかってくるので、収益性は右肩上がりとはいえない。最低限、現状維持を目指し、商品戦略、販売戦略をたてていきたいと考えている。

Q8. 監視&FA や車載の分野で在庫調整について言及があったが、在庫調整はいつまでかかるのか？

A8. 車載でいえば、半導体不足の解消により、足元で車メーカーに増産の動きはみられるが、我々が納めているのはTier1/Tier2であり、現状、以前にTier1/Tier2に納めて在庫となっているものを吐き出している段階である。最終メーカーが増産していけばいずれは解消していくが、少なくとも下期は難しいと考える。

<ご留意事項>

本資料は、決算説明会に出席になれなかった方々の便宜のため、参考として掲載しており、説明会でお話したことをそのまま書き起こしたのではなく、当社の判断で簡潔にまとめたものであることをご了承ください。

また、本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があることをご了承ください。